

北海道で漁師になろう ⑥

私たちは
道外からやってきた
漁業就業研修生
です

北海道漁業就業支援協議会

北海道漁業就業支援協議会のサイト

<http://h-suisankai.or.jp/conference/>

北海道漁業就業支援協議会

北海道で漁師になろう 011-280-3007

〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目
北海道水産ビル 一般社団法人北海道水産会内

HOME 北海道で漁師になろう 漁師になる仕事 就業支援協議会とは アクセス 長期研修とは フィッシュ情報

最新情報 What's New

2015年12月08日
東京で今年度3回目の「北海道漁業就業フェア」2015が開催されました。

2015年11月06日
「北海道漁業就業フェア2016 in さっぽろ」の準備が完了しました。

2015年10月15日
全国水産就業支援センター主催の「北海道漁業就業フェア」が開催されます。

2015年09月10日
「北海道水産就業フェア2016 in さっぽろ」の準備が完了しました。

2015年07月17日
長期就業研修生の手配が完了しました。

2015年06月19日
漁業と結びつく北海道の自然環境センター参加も事業2の開催。

2015年06月10日
長期就業研修生の募集開始。

2015年05月29日
平成27年度第1回「北海道漁業就業フェア」札幌市で開催。

2015年05月15日
「北海道漁業就業フェア2015 in さっぽろ」の出展受付が完了しました。

2015年05月14日
「北海道漁業就業フェア2015 in さっぽろ」のポスターが完成しました。

リンクOFFICIAL LINK

各種の情報を集めよう

北海道への移住情報(道庁) 北海道への移住情報(関係団体) 水産庁(関係団体) 北海道の水産情報(道庁)

北海道の水産情報(関係団体) マーケット情報 北海道の水産情報(水産庁関係) さっぽろ

全国水産就業支援センター

北海道漁業就業支援協議会

〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目 北海道水産ビル 一般社団法人北海道水産会内
TEL 011-280-3007 FAX 011-280-3008
E-mail: fish01@h-suisankai.or.jp

Copyright© 2012 Hokkaido Fisheries Association.

北海道漁業就業支援協議会

〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目
北海道水産ビル 一般社団法人北海道水産会内
TEL 011-280-3007 FAX 011-280-3008
E-mail fish01@h-suisankai.or.jp

北海道の漁業に興味があるんです

..... 1

典型的なリターンです

..... 4

利尻富士町鬼脇 大関宏平さん

あの3・11に被災しましただから

..... 6

森町上台町 深野良彦さん

友人とともに漁師になる

..... 8

利尻町沓形 川嶋祐登さん

猫が大好き

..... 10

利尻町沓形 佐藤夏惟さん

クラブ活動はボクシング部

..... 12

利尻町沓形 水貝和宏さん

九州男子ですよろしく

..... 14

礼文町船泊村 古賀靖信さん

兄貴の後を追うここにきました

..... 16

利尻町沓形 小林憲二さん



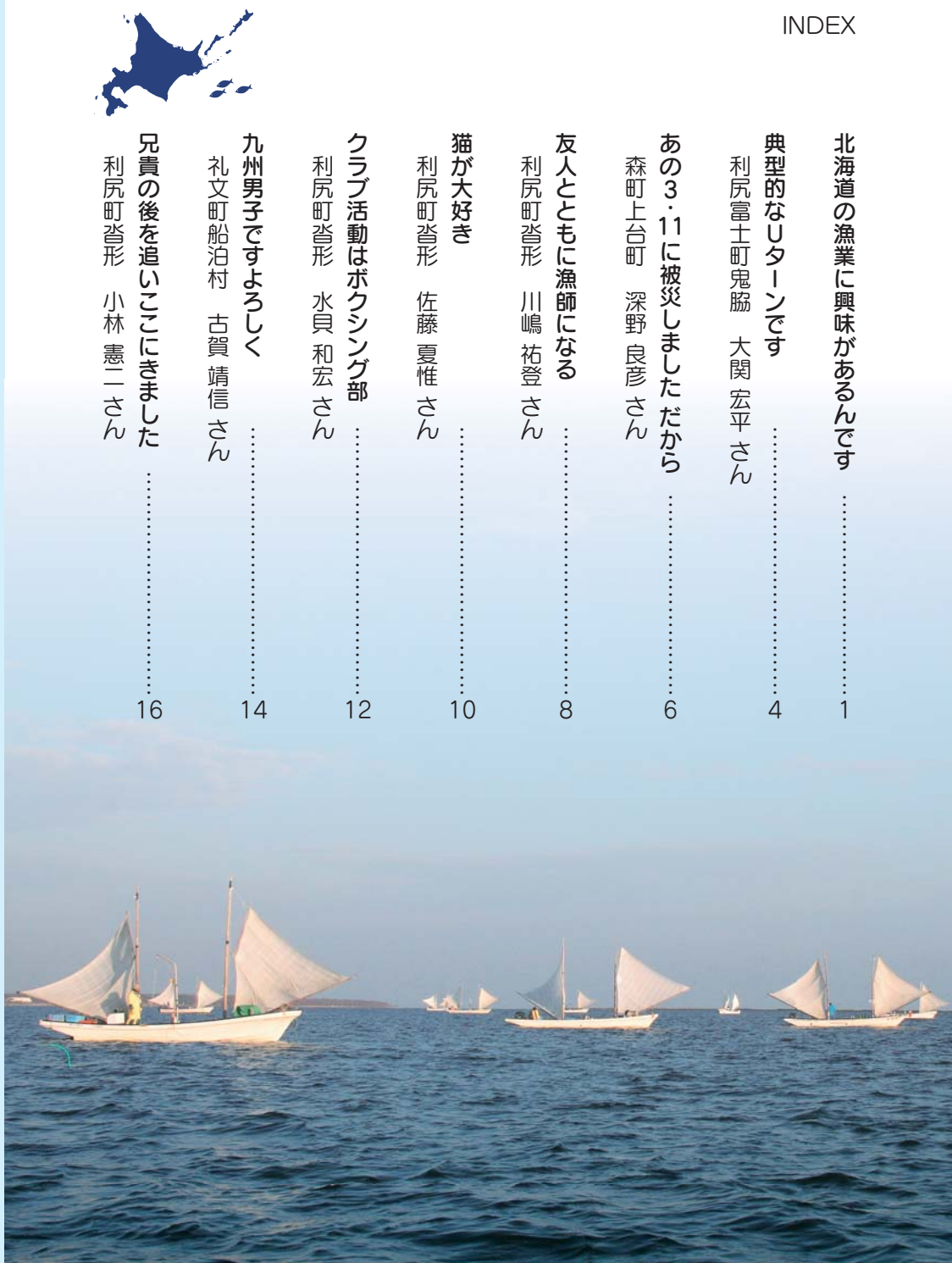
北海道の漁業に興味があるんです

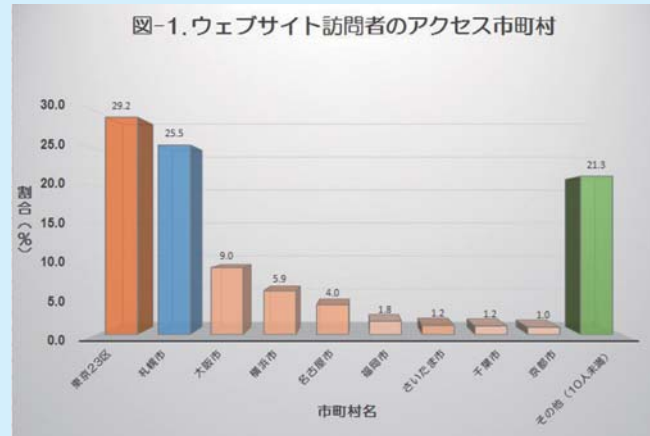
北海道を旅行する人は、美味しい食事をすることや農産物、水産物の土産を買うことを旅行目的の一つにしている人が多いそうです。とくに、魚介類は人気で、遠征や公演で来道するスポーツ選手や芸能人も北海道の魚介類を使った食事を楽しみにしています。北海道は日本の総漁獲量の27%を占める（平成25年）日本一の水産王国ですので、新鮮な美味しい魚介藻類を食べることができるのは当然かもしれません。



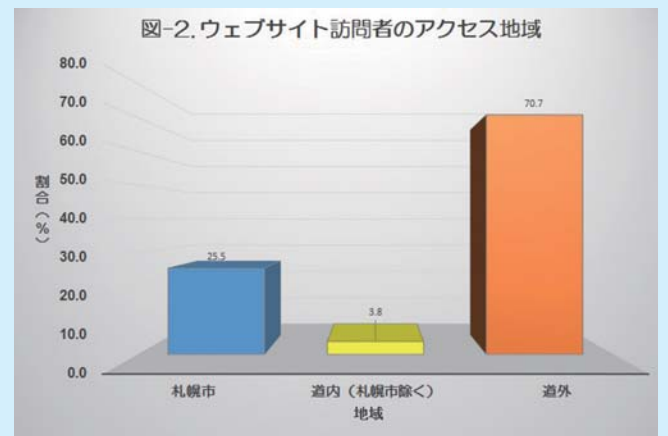
全国の約4分の1の生産を誇る北海道の漁業を支える個人経営体は、多くが専業漁家で52%、また第1種兼業漁家（収入の50%以上が漁業収入）が38%、第2種兼業漁家（漁業収入は全収入の50%未満）が10%であるのに対して、本州、四国、九州では第2種兼業漁家が24%も占めます。北海道に住む漁業就業希望者は、地元だからとの理由が比較的多いですが、道外からの希望者にとっては専業と第1種兼業漁家が多い（漁業の収入が多い？）ということは大変魅力的に感じるようです。

北海道漁業就業支援協議会のホームページは平成24年3月にリニューアルし、ホームページへの訪問者は年間1万人程度に増加しました。さらに、平成26年10月にスマートフォン対応のホームページを開設したところ、平成27年度は約1万7000人まで増加する勢いです。このように、ホームページの強化によりホームページ訪問

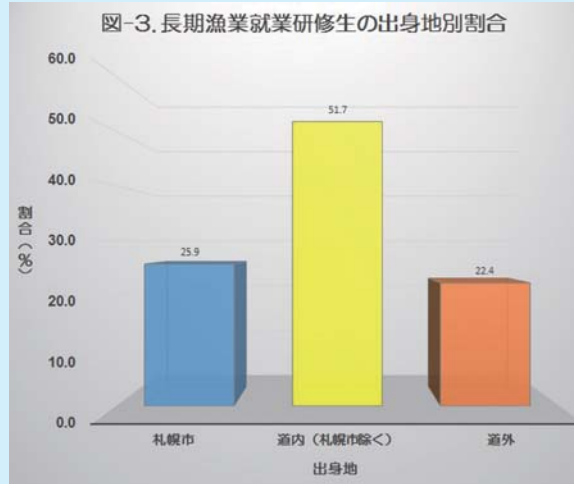




者が増加し、3年前と比べると1.7倍という多くの人が当協議会の担い手対策に関するページを閲覧していることが分かります。それでは、どのような地域（市町村）の人が閲覧しているのか、平成27年9月20日～同年10月20日のデータで調べてみました。すると、最も多いのは東京23区で、次が札幌市、3位は大阪市、4位は横浜市そして5位が名古屋市でした（図-1）。道内機関のホームページなので札幌市が多いのは当然だと思いますが、道外の東京23区がぎわめて多いのが驚きでした。大都市のそれも首都の多くの人が閲覧している理由は定か



ではありませんが、人口が多いただけでなく、大都市には自然志向の人が多くいるかもしれません。全国漁業就業支援センターが主催する漁業就業支援フェア東京会場には、このところ380名、299名の来場者が訪れ、東京圏での漁業人気が高いことが証明されています。次に、図-1のデータのまとめ方を変えて札幌市、道内（札幌市を除く）および道外に分けて図-2に示しました。図-2を見て分かることは、札幌市を除く道内地域の人はあまり閲覧していないことです。そして、ホームページ訪問者の多くが道外ということです。それで



は、フェア等でマッチングして研修生になった人の出身地はどうでしょうか。北海道漁業就業支援協議会は平成21年度に発足以来、毎年研修生を確保・育成してきましたが、その総数は116名（平成27年10月現在）で、最も多いのが札幌市を除く道内地域出身で52%（60名）、次に札幌市の26%（30名）、そして最後が道外の22%（26名）でした（図-3）。ホームページ来場者とは逆の最もホームページ訪問者が少ない、札幌市を除く道内地域、が約半数を占める結果となっています。厳寒の冬が長い北海道、本州や九州から見ると遠い地、これらの条件を考えると、道外

から漁師になるために北海道に来るということは大変な覚悟がいるのではないのでしょうか。また、道内へのフェアに参加するには時間と高い経費がかかります。なかなか、道内フェアに参加する踏み切りがつかない人が多いのではないのでしょうか。これらのことを考慮すると、道外から研修に入った人数26名の実績は決して少ない数ではないのかもしれません。北海道への憧れだけでは漁師になれないことは漁師を目指す人たちもきつと分かっているのでしょうか。今回の冊子では、道外から北海道で漁師になるためにやってきた現在受講中の研修生を紹介します。平成27年度の研修生で道外出身者は北海道の北日本海に位置する利尻島と礼文島に集中しています。両島の基幹漁業は採海藻漁業です。この漁業は比較的低コストで始められ、独立した漁業者になり易いという特徴があります。漁師になりたいという人は、独立した漁業者を希望する人が多く、このことが道外からの移住者の魅力になっているのかもしれません。また、今回の取材で気がついたのは友達との輪の重要性です。なぜ重要なのかについては各研修生の紹介で明らかにされます。現在（平成27年10月）、道外からやってきた研修生は7名。次ページから研修を開始した時期順に研修生を紹介いたします。

典型的なUターンです

利尻富士町 鬼脇

大関 宏平さん

研修期間…平成25年4月5日・28日 4月4日

大関さんは、千葉県の中央部に位置し、成田市、佐倉市及び東京都区部への通勤率が40%以上ある典型的なベッドタウンの酒々井町に住み、成田空港で貨物関連の仕事に就いていました。しかし、彼は生まれも育ちも北海道で、典型的なUターン研修生です。生まれは釧路市で、小学校から高校までは北海道帯広市で過ごしました。そのため、北海道の厳しい気候は承知の上で、どうしても生まれ故郷の北海道に戻りたいとの気持ちが大きくなりました。戻るにあたって、生活していくために必須の就業については一次産業を希望し、農業か漁業かで迷いました。最後は多くの収入が得られそうなか

と、またコンプ漁業への興味から漁業を選択しました。ちなみに、大学は経営学科で農業や漁業とはまるで関連がないとのことでした。

研修生になったきっかけは、平成24年7月に東京で開催された漁業就業支援フェア（一般社団法人全国漁業就業支援協議会主催）に参加し、北海道漁業就業支援協議会のブースを訪れたことでした。その後、当協議会の勧めで翌年2月に旭川市で行われた漁業就業支援フェア（北海道漁業就業支援協議会主催）に参加しました。旭川のフェアで利尻漁協の漁業者と話し合い、結果として利尻島での漁業研修に結びつきました。

研修は平成25年4月から始まりました。将来独立を目指すため、独立型の研修を受講していますので、期間は3年間です。平成27年度は3年目の最終年であり、今後の独立に向けた具体的な計画を立てなければならぬ時期にやります。

これまでの研修で辛かった

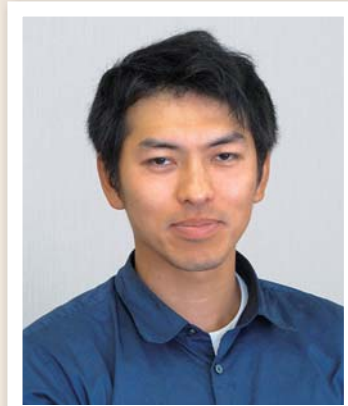


ベシ岬からの利尻山

た。「本州からやってきた大関さんにとって、離島での生活は大変でしょう」との問いには、「2年経って慣れてきたので今に不満は感じられな」とのこと。

「退屈なときは寝ます」と笑って答えてくれました。

ことには繋がっていません。都会で過ごしたことが多い大関さんにとって島の生活に戸惑いがあり、自分の行動がまわりのみんなが知っているということに息苦しさを感じることもあるようです。ただ、まわりには良い人



大関宏平さん

が多く、楽しい生活を送れており、仕事ではたくさん獲れたときが本当にうれしいとのことでした。

和船（1・2・1・7の主に「コンプ漁業で使用」を取扱いたいと思っていたところ、中古船を取得できることになったと期待に胸膨らましています。不注意で船が風で流され、テトラポットにぶつかりそうになった時、寸前のところで親方に助けられたことがあったそうです。危険な職業である漁業には常に緊張感を持って取り組んで行かなければならないと感じた出来事でした。近所の人とはあまり付き合いはありませんが、漁師仲間とは時々酒を酌み交わすことがあります。村の祭りには漁協青年部として出店に参画し、海岸清掃などにも参加しています。

平成26年4月に組合員資格を取得し、独立に向けてキックオフ！

あの3・11に被災しましただから

森町上台町 ● 深野 良彦さん

研修期間…平成27年5月1日・28年4月30日

深野さんは生まれも育ちも東京。大学入学のために東京から岩手へ。水産系の大学では水産学を学ぶかたわら、クラブ活動として生物部に入り、付き合ひのある定置網の親方から手に入れた魚や貝を飼育しました。小学校などを訪れて、これら水産生物を子供たちに見せる、生態を教えるなどを行う移動式水族館を運営した経験を持っています。また、アルバイトではホタテ養殖業の耳づりなどを行いました。このような経験から、魚介類や漁業に興味を持つようになり、とくにホタテ養殖業に強く興味を持ちました。

大学を卒業してからは東京で小学校の臨時教員をしていましたが、漁業への思いから漁業就業のための活動を始めました。大学生の時に、忘れもしないあの忌まわしい3月11日の東日本大震災に遭遇したため、漁業の就職先として岩手県を除外して考えざるを得ませんでした。北海道の豊かな海のイメージから北海道を漁業就業の地



船上で作業する深野さん

の違いは意思のやりとりに支障をきたし、場合によっては親方との気まずい関係が継続することもあります。意を決して話し合いを行い、自分の意見を言っただけで関係修復に努めた結果、今は関係良好になっています。また、厳寒期、船に乗ろうとして船と岸壁の間に落ちましたが、幸い掴まるものがあつたので、下半身だけが海に浸かるにとどまったとのことでした。面談の最後に、「冬の

として考え、函館市で開催された平成25年2月の漁業就業支援フェア（北海道漁業就業支援協議会主催）に参加しました。そのとき、森町から出展した現在の親方と初めて出会いました。

東京育ちの深野さんにとって北海道の気温はさすがに手強く、とくに冬は寒さが身にしました。仕事の時は、緊張感からかあまり寒さを感じませんが、家に帰ると建て付けが悪いこともあり寒さに震えることもあります。

研修は2年以上過ぎましたが、大変なこと、辛いこともあつたようです。親方と研修生の二人きりの関係



深野良彦さん

は時には辛いことにながることがあるようです。一人先輩がいるといいのになあ」と語っていました。言葉

作業は滑って危険だから気をつけ」といったときに話してくれたエピソードです。



森漁港

近所付き合いや仲間との付き合いはあまりしていないようですが、漁協が行っているサンデークルージング（婚活活動）には是非参加するよう親方や仲間からいわれているとのことでした（笑）。今後については漁協や親方とよく話し合い、独立に向けて始動！

友人とともに漁師になる

利尻町 峯形 川嶋 祐登さん

研修期間…平成26年4月1日・29年3月31日

「寒さは変わりませぬ」。北海道の、それも利尻島の冬は厳しいという答えを想像していましたが、意外にもあまり感じないようです。彼の出身県である青森県の冬の気候は厳しく、利尻島の冬とあまり変わらないと教えてくれました。しかし、夏は利尻島の方が涼しく、その点では過ごしやすいとのことでした（涼しい夏はつまらない？）。冬



川嶋祐登さん

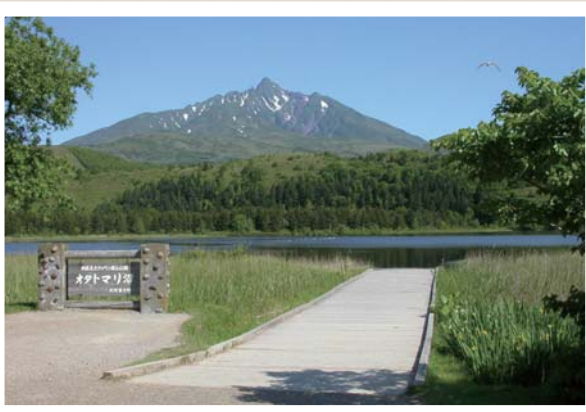
の気候はあまり変わりませんが、言葉はかなり違うらしく、「青森の方言は通じません」と一言。



本泊漁港(利尻)

も、情熱的な人が多い」としっかりとフォロー？。

弘前藩の城下町として発展し、青森県を中心都市となっている弘前市出身の川嶋さんは、現在20歳の若者。学



オタトマリ沼(利尻)

生からすぐに研修生になったので、社会人としての経験はないそうです。生まれも、育ちも弘前市の川嶋さんがなぜ北海道に、そして利尻島に。その答えは、平成21年度の当協議会研修生であった小林由典さん（現在は一人前の漁師）にありました。由典さんは川嶋さんの友達（16ページで紹介）の兄さん。この関係から、利尻島の漁業を知り、小林さんの生活を聞くうちに利尻島での漁業への就業を思いたちます。

平成26年5月には組合員資格を取得し、中古の家を買い、親方から中古の磯舟を譲り受け、独立に向けて用意万端です。親方との大きなトラブルもなく、研修は順調に経過しています。でも「毎日が小さいトラブル」といつて笑っていました。研修修了後の独立に向けた親方との話し合いはまだ行われておらず、独立の姿ははっきりしていませんが、刺網漁業は親方と共同で行い、採集藻漁業は単独で行いたいとしっかりした自分なりのイメージを持っています。近所付き合いや漁師との付き合いはほとんど。

現代っ子気質をうまく発揮して、シュート！

猫が大好き

利尻町沓形 ● 佐藤 夏惟さん

研修期間…平成26年4月1日・29年3月31日

「何が不便」との問いに、「猫を飼いたいのだけれども、動物病院がないことが不便」と変わった発言をした佐藤夏惟さん。川嶋さんと同じく平成26年2月の東京での漁業就業フェアに参加し、同年4月から長期実地研修に入った佐藤夏惟さんは、横浜から移住してきた都会育ちの青年です。まだ24歳と若いけれどもなかなかしっかりした発言をする青年です。

佐藤さんは神奈川県工業地帯として有名な川崎市生まれ、小学校から高校まで川崎市で暮らしたそうです。学生時代は書道部に所属し、そのためか静かに、地道にことを進める（根気強い）ところがあります。これまで工場やスーパーに勤務しましたが、一次産業の生産から加工までをやってみたいとの思いから、漁業を選択したとのこと。そこで、東京で開催された漁業就業フェアに参加し、今の親方に出会いました。利尻島を選ぶという意識はありませんでしたが、たまたま親方が利尻

島の漁師だった、これが利尻島に移住した理由だそうです。今現在研修している漁業種はコンブ養殖業、採介藻漁業、刺し網漁業などですが、フェアでの相談の中でこれら漁業に興味を持ったそうです。

ヒートアイランドの大会から来た佐藤さんにとっては、やはり利尻島は寒く感じるそうです。佐藤さんは、実は花粉症でしたが、「利尻島は（原因）花粉がないので良いです」と移住の思わぬ利点を感じています。利尻島に住んでは親戚や友達に海産物を送っているとのこと、これは大きな楽しみになっています。都会育ちの



室内でのコンブの乾燥



佐藤夏惟さん

な職業だということに気づく出来事だったそうです。平成26年5月には組合員資格を取得し、独立の準備はできていますが、和

佐藤さんは言葉で苦労しているのではないと思いますが、「言葉の違いは感じません」とのこと、多くの研修生が悩む言葉では苦労していません。

研修を継続していく上で一番肝心なのは、親方との相性です。これまで些細なトラブルはあったようですが、大きなトラブルはなく、そのためこれまで研修は順調に進んでいます。生活に重要な近所付き合い、漁師仲間との付き合いはとくに問題なく、地区の集いや祭りの出店にも参加しています。研修中、佐藤さん自らが危険な目に遭ったことはありませんが、親方のすぐそばに八尺のロープが切れて重い部品が落ちてきたそうです。漁師は危険

船が欲しいという希望はまだ叶っていません。「ところで、猫は飼っているの？」「まだ飼っていません！」。



コンブ養殖業に使われる和船

クラブ活動はボクシング部

りしりちようくつがた
●
みずがい
かずひろ

研修期間 .. 平成26年7月4日 - 29年7月3日

「去年よりウエス
年を過ぎ、技術の
は、今までの研
修生では珍しい関
西出身です。生ま
れも育ちも神戸市
で、少し大阪に住
んでいたことがあ
るものの、関西と
いうことには変わ
りなく、純粋な関
西人です。自分な
りの性格判断では
明るい性格だとの
ことなので、飲み
会では楽しい人に

なるのでしょうか。高校時代にはボクシング部に所属する硬派（?）。そんな水貝さんですが、意外にも心が折れやすいとのこと、明るい性格、関西育ち、ボクシング経験者からは想像が付きません。

公社、パン屋あるいはいろいろな職種を経験したようです。平成22年度の中辻研修生とは友達で、彼から漁業のこと、利尻島のことを聞いて利尻島での漁業は、これまでの職業より所得に期待ができると思ったそうです。

年間気温の高い
関西から移住して、
日本の北端で1年
間暮らして見まし
たが、寒さは問題



7月の天然昆布採取

環境にほとんど問題を感じていないけれど、眼科がないことが少し心配とのことでした。

利尻漁協での面
談の後、「何か困っ
たことがあったら
連絡してください」

まるで感じるそうです。でも、それは北海道というより島ということが関係しているかもしれません。利尻



水貝和宏さん

島に暮らして良かった点は、漁師だから当然ですが、新鮮な海のものをすぐに食べられることだそうです。生活

といってきたところ、後日、電話があり、確定申告のことを質問されましたので、協議会としてわかりやすく説明しました。税金のことを質問されたのは初めてのことであり、この一件でなかなかしつかりした青年との印象を持ちました。

組合員資格は研修が始まってすぐに取得し、今では一軒家を借り、磯舟も入手したので、独立に向けての準備は順調に進んでいます。研修中、とくに辛いこと、また親方とのトラブルもなく、今後も順調に技術向上を目指せそうです。研修修了後は、親方とコンブ養殖を共同経営で行う話も出ているそうです。

北海道の寒さをノックアウト！

九州男子ですよしく

礼文町 船泊村 ● 古賀 靖信さん

研修期間…平成27年5月1日・28年4月30日

古賀さんの出身地は、人口30万人超の福岡県第3位の都市である久留米市です。水貝さんのように関西出身も珍しいですが、九州出身の研修生は北海道漁業就業支援協議会としては初めてです。

古賀さんはキャンピングやバイクツーリングなどのアウトドア派で、そのためか林業や漁業の一次産業に興味を持っていました。礼文島は旅行で来たときにその環境が気に入リ、また島の魚介類（特にウニ）が美味しかったことも礼文島を好きになった理由になり、礼文島で暮らせたらの思いが心の片隅にありました。そんなある時、インターネットで漁業就業フェアのことを知ったそうです。平成27年2月の札幌でのフェアに参加した古賀さんは、礼文島の船泊漁協の漁師さんと話し合い、漁師になる決心を固めました。親方はコンブ養殖業と採介藻漁業を行っており、養殖業には安定性、採介藻漁業には漁業準備経費や漁獲経費があまりかからない容易さを感じ

じ、これら漁業を行っている親方を選んだそうです。つまり、礼文島を選んだら、林業ではなく漁業就業になったと言ったことだそうです。

礼文島に暮らして寒いと思うこともありますが、基本的に寒さより暑さが苦手なので問題なく、夏から初秋は本当に心地よい気候で、冬の寒さもある意味楽しみにしているとのことでした。北海道と福岡の違いを聞いてみると、「福岡の出汁はイリコやカツオ、北海道はコンブの違いがあります。また、福岡は甘い味付けで、こちらはしょっぱい」とあくまで食べる話でした。



古賀靖信さん

研修は（漁師は）朝が早く、その面では辛く感じることもありますが、それにもまして労働の後の酒が楽しめると言っていました。漁船に乗っての労働は楽しく、今後も漁師を続けていきたいと思っています。医



礼文島からの利尻島

療施設については不便を感じていますが、買い物についてはネットで購入可能なので不便を感じていません。「もう少し食べるところがあれば良いのにな」と独身男性がポツリと一言。

礼文町では新規の就業者のための施策を整え、就業

初期の給付金制度、安い費用での町営住宅の貸与など多くの優遇措置を講じており、古賀さんも新築の家への入居が叶い、また就業後は給付金により生活の安定が図られる予定です。

古賀さん曰く、「親方は非常に優しく、トラブルは一切ない」と優しいことを強調していました。これほどまでに指導者が優しいと発言する研修生はこれまでにいませんでした。このことは古賀さん自身も優しい人柄だからかもしれません。

古賀さんは、雇用型の研修を受けていることもあり、現段階では独立に向けた計画は持っています。

でも、近い将来独立したいとの思いを強く持つ九州男子！



礼文島澄海岬

兄貴の後を追いかけてきました

利尻町 養形 ● 小林 憲二さん

研修期間：平成27年8月1日・30年7月31日

「どうして弘前から利尻島へ？」との問いに、
「兄貴から稼げるから島に来いといわれたので」
「兄貴って？」

「前に利尻島で研修生だった小林」

こんなやりとりがあり、小林憲二さんが平成21年度の
研修生小林由典さんの弟だということが分かりました。
兄の小林さんは、新人の頃からベテランと同じ量のウニ



小林憲二さん

を獲り、浜では漁師のセンスが良いと評判でした。そんな兄さんだから、「稼げるから」という言葉が出たのでしょうか。



コンブ養殖業に使われる和船

小林憲二さんは生まれも育ちも弘前市。有名な弘前城の近くから利尻島に移住してきました。漁業の町ではない弘前市で育った小林さんが漁業に興味を持ったきっかけは、利尻島の友達（8ページの川嶋祐登さん）や兄から漁業に誘われたことだそうです。彼らから漁業、生活、島という環境などいろいろな話を聞いて、結果として利尻島での漁業に興味を持ったそうです。



オタトマリ沼からの利尻富士

利尻島の気候は弘前市と大きな違いはなく、違和感なく生活できるそうです。今まで食べたことのないババレイやホッケが食べられ、利尻島暮らしを楽しんでいるとのことでした。学生時代は野球部に所属し、卒業後は鉄道関係の土木作業を行っていたので、体力には自信があります。室内作業よりも海での作業が大好きな肉体派。現在は兄が入居している町営住宅に居候を決め込み（住居代無料）、経済的にも助かっています。漁師として大切な近所付き合いや漁師との付き合いも少しずつ行っており、だんだん新しい親しい人や仲間も増えていくことでしょう。

採介藻漁業を行うのに必要な磯舟も取得、組合員資格も取得と独立に向けて少しずつ前進しています。研修を中断してしまう大きな原因である親方との相性も問題なく、漁師になった兄がすぐ近くにいるため今後の独立に向けたイメージもできあがっているそうです。

利尻町で兄貴をこえる！